

2025年3月21日(土) 13:30～
公益社団法人日本都市計画学会関西支部2024年度シンポジウム
『震災復興の継承 阪神・淡路大震災から30年
能登半島地震等の震災復興に経験は生かされているか』
@兵庫県中央労働センター

東日本大震災等の現場では 教訓がどう引き継がれたのか

ですが...

姥浦道生
(東北大学災害科学国際研究所)
ubaura@tohoku.ac.jp



本日の話

- はじめに
- 東日本大震災と復興空間計画の概略
- 防潮堤問題にみる総合的「地区の論理」と縦割りの「事業の論理」
- 地区レベルの計画策定プロセス
- まちづくり会社・エリアマネジメント
- まとめ



簡単な自己紹介

■ 職歴

- 2003-05 豊橋技術科学大学COE研究員
- 2005-08 大阪市立大学工学部助手・助教
- 2008-20 東北大学大学院工学研究科 准教授
- 2020- 同教授 (2022- 同災害科学国際研究所に配置転換)

■ 専門

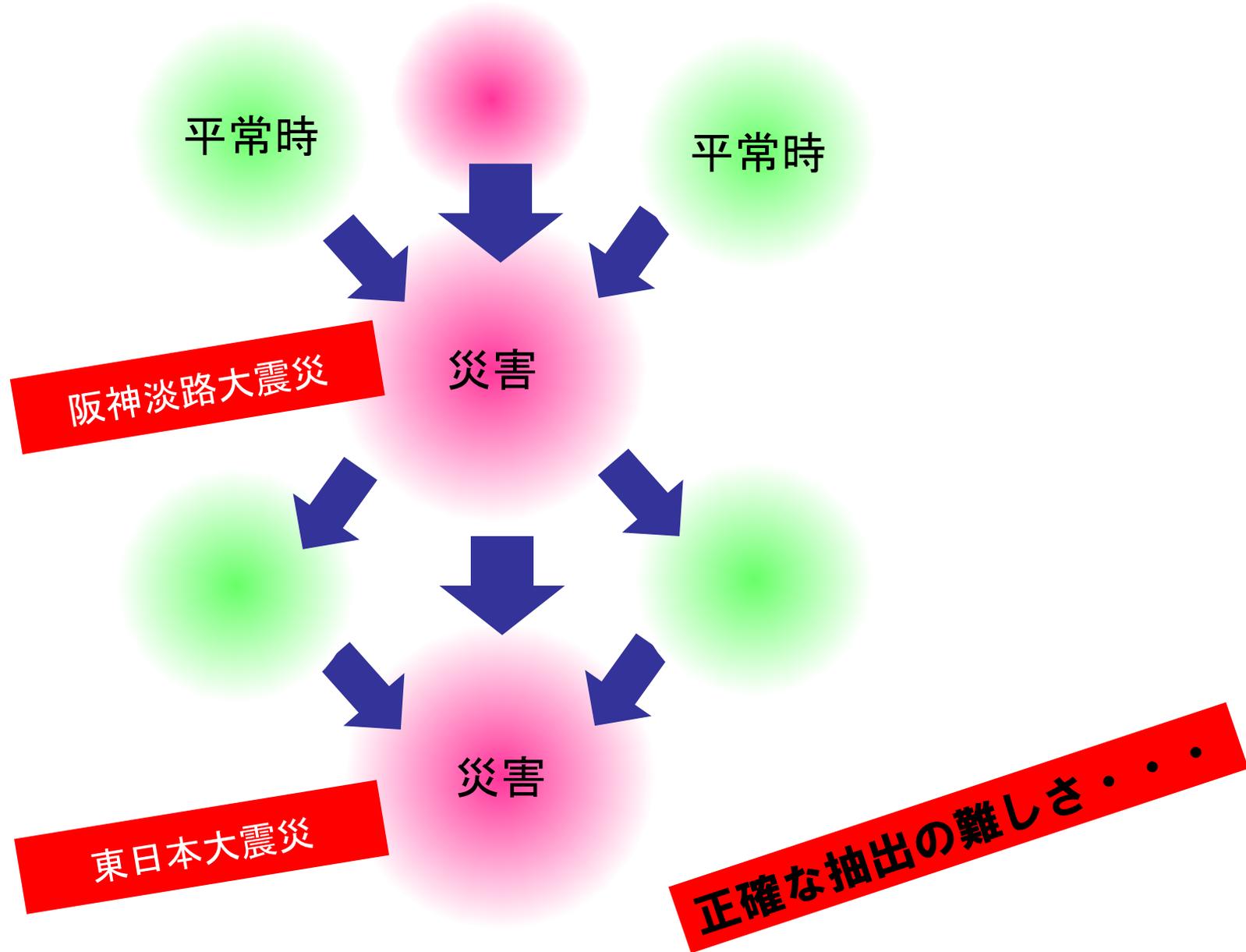
- 都市計画・土地利用計画
- 東日本大震災後は「復興」都市計画・土地利用計画

■ 震災復興への関わり

- 自治体の委員等
 - 国土交通省震災復興パターン検討調査監理委員(宮古市, 塩竈市)
 - 石巻市「復興まちづくり推進会議」委員(市街地WG座長)
- 国の委員等
 - 国土交通省「東日本大震災による津波被害からの復興まちづくり検証委員会」委員
 - 復興庁「東日本大震災からの復興の総括に係るWG」委員
- さらに現在・・・
 - 輪島市「復興まちづくり計画検討委員会」委員長
 - 珠洲市国土交通省作業監理委員会委員

空間計画に限定

復興まちづくり技術の伝播





いくつかの言い訳

■ 「阪神淡路大震災」と「東日本大震災」

	阪神淡路大震災	東日本大震災
メインのハザード	地震	津波
人口趨勢	増加	減少
地域特性	大都市	地方都市・農漁村
震災前の課題	過密	過疎

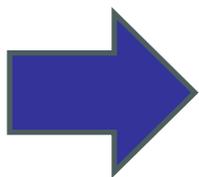
むしろ違いの方が大きい

■ 「東日本大震災からの復興」の多様性

- 被災の多様性
- 地域特性の多様性
- 復興計画の多様性
- 復興プロセスの多様性

一般化は困難

■ 「そもそも「阪神淡路大震災」をどれだけ姥浦は理解しているのか？」問題



本プレゼン: 東日本大震災(の一部)の話

+

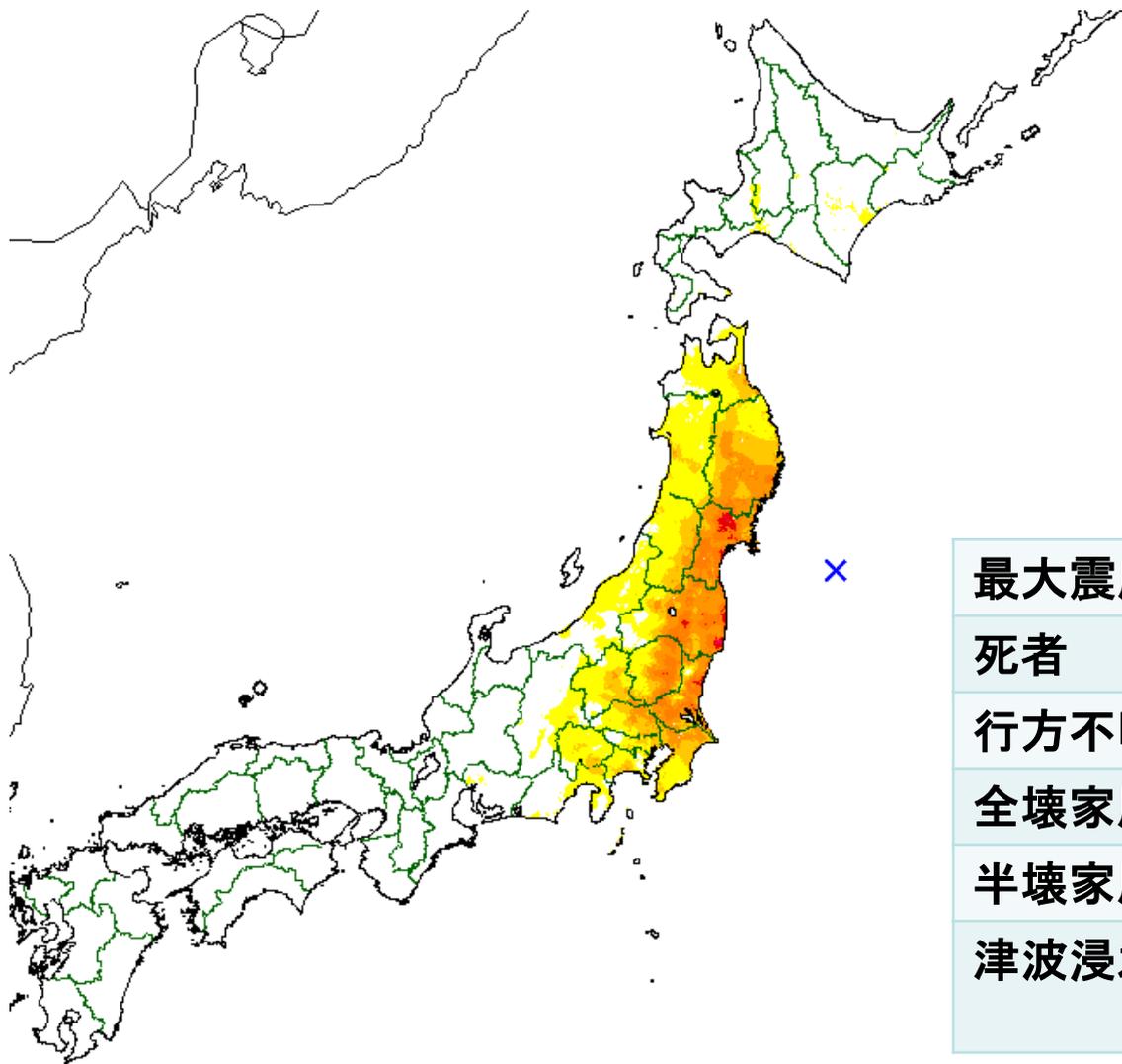
「どう引き継がれたのか？」については後半のディスカッションで



本日の話

- はじめに
- 東日本大震災と復興空間計画の概略
- 防潮堤問題にみる総合的「地区の論理」と縦割りの「事業の論理」
- 地区レベルの計画策定プロセス
- まちづくり会社・エリアマネジメント
- まとめ

2011.03.11 東日本大震災



最大震度	7 (栗原市)
死者	19,418人
行方不明者	2,592人
全壊家屋	121,089棟
半壊家屋	278,496棟
津波浸水範囲面積	約561km ² (山手線内側の約9倍)

(2016年3月8日現在、消防庁まとめ)

【震源要素】

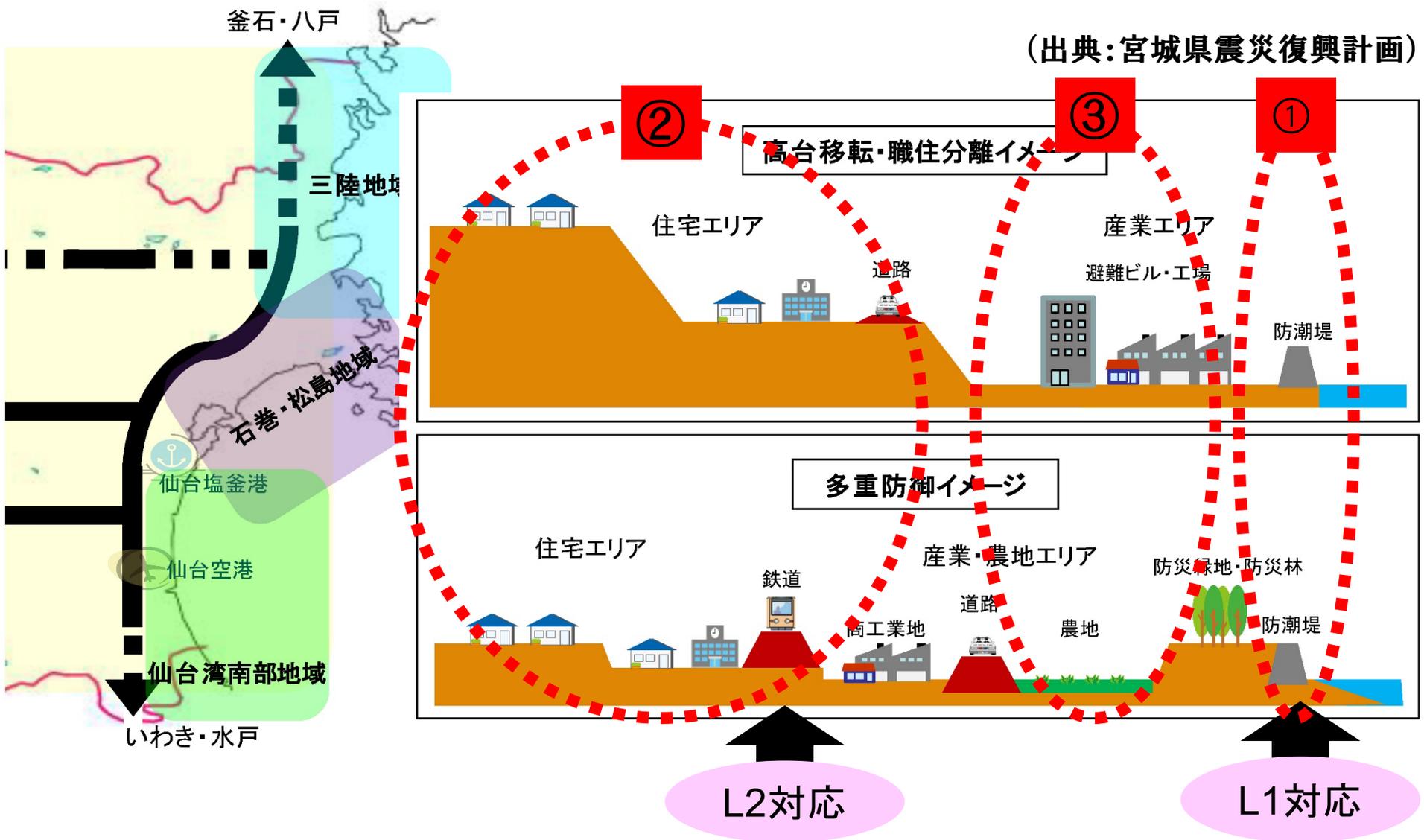
2011年03月11日14時46分 三陸沖 M7.9

【情報時刻】

2011年03月11日15時01分



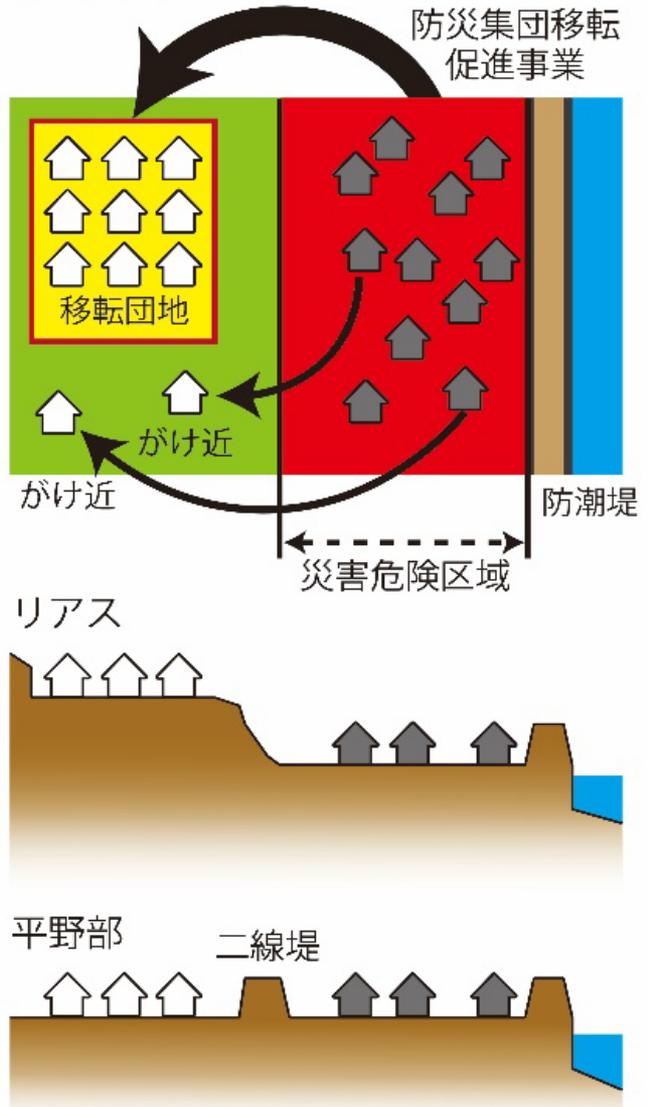
復興計画のイメージと計画策定プロセス



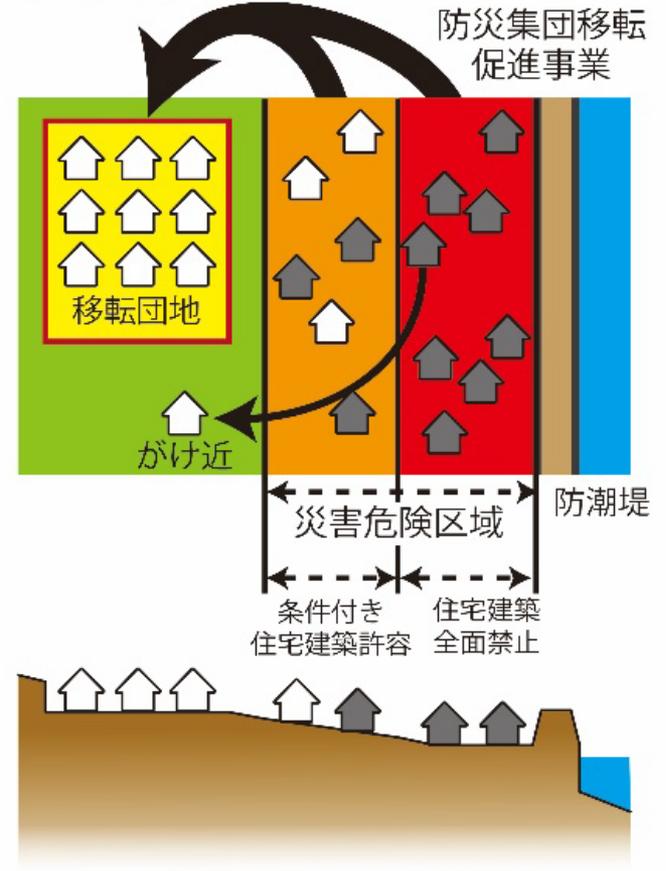


「移転型」

① 移転型



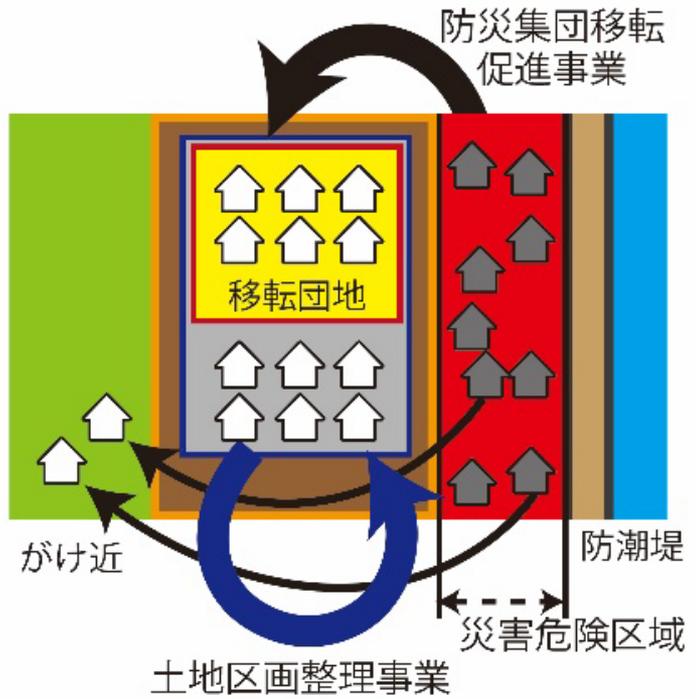
①' 移転選択型



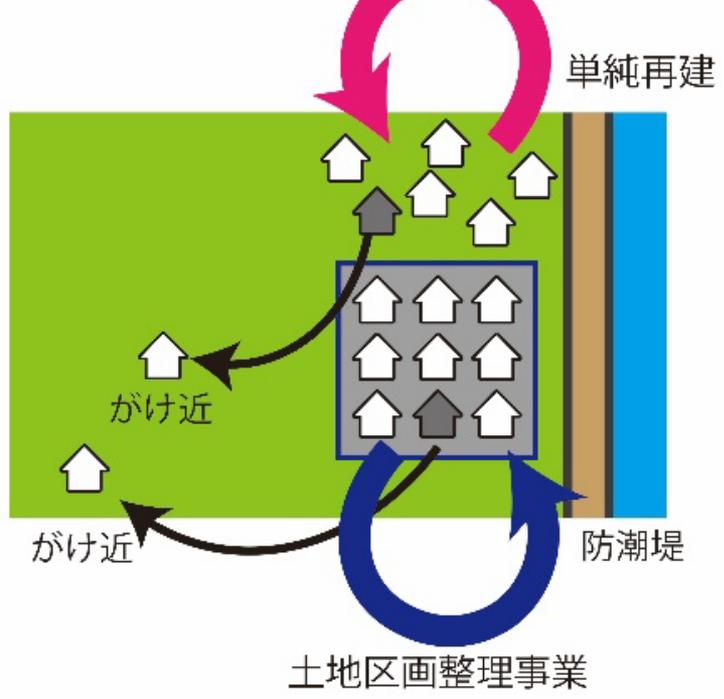


「原位置再建型」

② かさ上げ原位置再建型



③ 原位置再建型





本日の話

- はじめに
- 東日本大震災と復興空間計画の概略
- 防潮堤問題にみる総合的「地区の論理」と縦割りの「事業の論理」
- 地区レベルの計画策定プロセス
- まちづくり会社・エリアマネジメント
- まとめ







「地区」は低い高さでまとまっていたが・・・
反映させるプロセス（手続規定）の欠如／「地区」の定義の欠如



いくつかの論点

- 横断的総合的「地区の論理」と縦割りの「事業の論理」
 - 「地区」に事業の決定権なし ⇔ 事業決定権は事業の実施者
 - 宮城県知事:安全性を重視してL1高さを譲らず
 - 高さ(安全性基準)を含めて地区に決定権を与えるべきか?
 - 「地区」外には直接的影響なし
 - 一律を外れるという「間接的影響」を県は恐れる
 - ⇔「広域の論理」との調整はまた別問題

- 「地区住民意向」の公定化
 - 何を以て「住民意向」とするか?
 - まちづくり協議会の決定／自治連合会の決定＝地区の意思決定とする等、公定化プロセスの必要性
 - 地域自治／地区レベルのエリアマネジメントとも関係



気仙沼市大谷海岸（住民計画）

大谷海岸

私たちが大切にしたいこと
未来につなげたいこと

1. 海・環境..... 海と里を守り続け、その双方の資源を生かし合い、子どもたちにこの素晴らしいさを伝え続けます。
2. にぎわい・観光..... 海水浴場や道の駅などを活用し、大谷の「にぎわいづくりと観光復活」を目指します。
3. 人・コミュニティ..... 地域の多世代のつながりをこれからも大切にして、集い協力してコミュニティを育みます。
4. 防災・減災..... かさ上げや避難道などの防災整備においては、安全と地域資源の活用を十分に考えた上で、全体デザインを各関係者ととも考えていきます。
5. そのほか..... 「大谷らしさ」を大事にして、多様な人たちと対話しながら復興のまちづくりを進めます。



<復興イメージの紹介>

- ・海岸線の①砂浜は大谷のみんなが大事にしているので、できる限り幅広く三島漁港までしっかり確保する。
- ・旧駐在所から海洋館までの②国道をかさ上げして防潮堤を兼ねる。また③背後地もかさ上げする。
- ・漁協前のエリアに、にぎわいの拠点となる④道の駅を移設。海水浴場の⑤駐車場と子どもたちの遊び場になる⑥多目的広場も併設する。
- ・三島漁港側から国道に続く⑦市道をかさ上げし防潮堤を兼ねる。砂の丘の自然をできるだけ残し、⑧ディキャンプ場や憩いの場を整備する。
- ・海洋館前の⑨防潮堤は原型復旧し、ハマボウフウやハマナスなどの⑩海浜植物公園とする。
- ・国道と砂浜の間は、三島漁港側まで⑪緑化し、⑫遊歩道・サイクリングロードを設置する。また緑化地帯を守る⑬護岸を整備する。
- ・復興の丘に⑭憩いの場を造る。
- ・既存の人エリーフとあわせ⑮砂の流出防止の調査研究と対策を継続して実施する。

※ JR は線路が出されていないため、今回は掲載していません。



気仙沼市大谷海岸（行政調整）

取り組み方針(3): 海浜環境と賑わいを両立した土地利用とします。

①西エリア

- 道の駅「大谷海岸」や、多目的広場、海水浴客向けトイレ・シャワーなど公共施設の集約地として整備します。(市)
- 被災した JR 大谷海岸駅機能の移転や、大谷 IC 近接という立地条件を活かした BRT 乗降場など、公共交通結節点としての整備を推進します。(市)
- 道の駅をはじめとした公共施設の運用については、民間のノウハウを最大限に活用し、協力して取り組みます。(民・市)

②東エリア

- 公共施設として、コミュニティ広場（慰霊の場としての活用も検討）を整備します。(市)
- そのほかの土地は民間利用地として、事業を再建したい方、新規で上げたい方の活動の場となるよう基盤整備に努めます。(市・民)

⑥林野海岸防潮堤

- 防潮堤の存在感を軽減するため、砂で覆います。(国)
- 住民との協働による植樹を検討します。(防潮堤整備後早々に実施)(民・国)

③砂浜へのアクセス動線

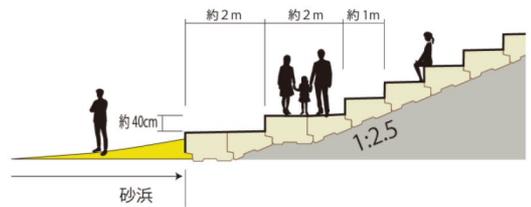
- 砂浜（海水浴場）に降りるためのメイン階段を設置します。さらに、滝根川付近と東エリア付近にも階段を設置します。(県)
- 管理用自動車が砂浜に降りるためのスロープを設置します。(県)

④砂浜「大谷海水浴場」

- 海水浴客向けトイレとして、夏季シーズンに限り海側に仮設トイレを設置します。(市)
- 海の家営業用の上水道を布設します。(市、調整中)

⑤環境や景観、避難行動に配慮した防潮堤

- 砂浜を広く確保し、かつ移動しやすくするために防潮堤の勾配は 1 : 2.5 とします。(県)
- 速やかな避難を実現するため、階段や坂路を確保するとともに、防潮堤のブロックも階段形状とします。(県)
- 砂浜付近は幅約 2m のプロムナード的空間を配置します。(県)
- プランター等による住民主体の緑化を可能とします。(占用許可申請を提出)(民)



⑦日門漁港（三島）防潮堤

- 湾内の他防潮堤と調整しながら景観や漁港利用者の利便性を確保した整備とします。(県)



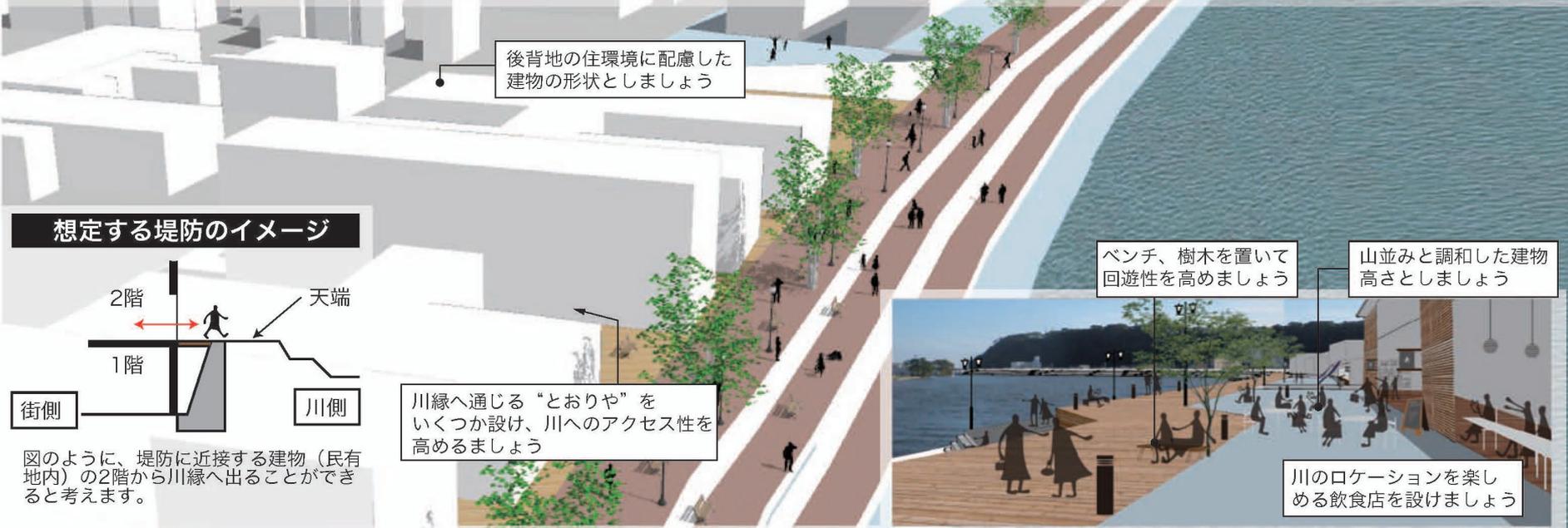


石巻市中心市街地（商業者計画）

重点ポイントの街並みづくりのルール

川沿いのルール

ワークショップを通じて、川沿いの街並みづくりのルールとして以下の通りまとめました。これらに配慮した街並みづくりをすることで、石巻の魅力溢れる場所としていきましょう。なお、建物の大きさ形はイメージです。



図のように、堤防に近接する建物（民有地内）の2階から川縁へ出ることができると考えます。

1. 建物の正面

- 川の水面、堤防ラインを引き立たせるため長く連続する立面には分節を入れましょう。
- 川のロケーションを楽しめるよう、また店舗の中の様子を外からもわかるよう、川に面する部分は積極的にガラス張りや大きな窓を使いましょう。
- 庇や看板などには積極的に地場産品を用い石巻の魅力を発信していきましょう。

2. 堤防上の演出

- ＜建物前面の設え＞
- 前面に商品を陳列する、オープンカフェとする等公共空間へ店舗の滲み出しを図りましょう。
 - 街灯や店舗の照明を共通のデザインや色とすることで、美しい夜景を演出しましょう。
- ＜堤防上の設え＞
- 川沿いのロケーションを引き立てる街灯や植木等を置き、また、それらを楽しめるベンチ等を置くことで回遊性を高めていきましょう。
 - 堤防と建物の接続部分はバリアフリーとし、舗装なども連続性のあるものとしましょう。

3. 建物の用途と高さ

- ＜建物の用途＞
- 1階は駐車場や商店等非居住の用途としましょう。
 - 2階部分には石巻の魅力である食・海産物などの特産品を扱う物販店、川沿いの景観を楽しめる飲食店、市民の憩いの場となる広場を設けましょう。
 - 安全性が確保された住居、医療施設等の拠点整備を進めましょう。
- ＜建物高さ＞
- 日和山の山並みと調和した高さとしましょう。
 - 川に面する部分では歩行者に圧迫感を与えないよう突出した高さの建物は控えましょう。

4. 後背地との関係

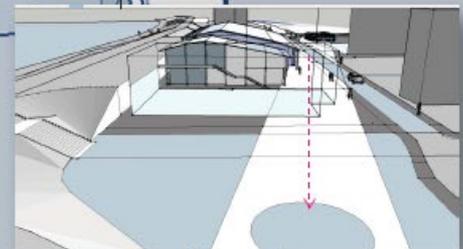
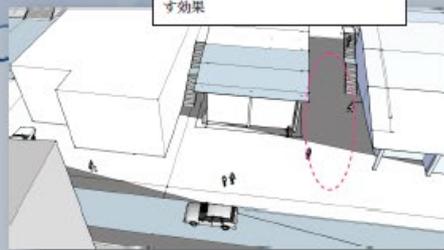
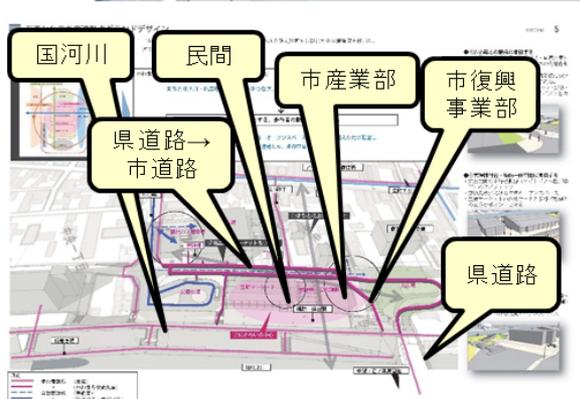
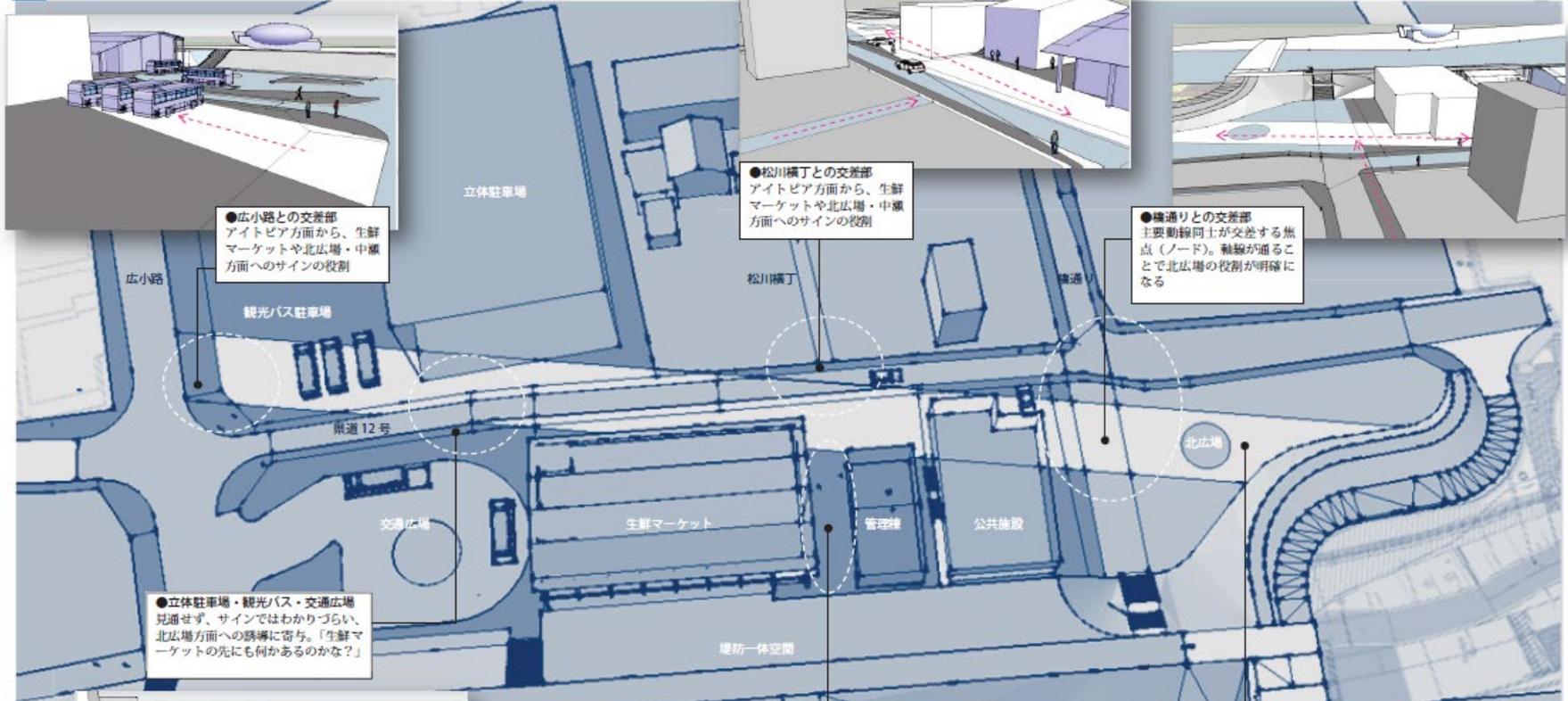
- 日の光を遮らない建物高さとする等、後背地の住環境に配慮した建物の形態としましょう。
- 駐車場は街区の内側に設けるか、通りに表出しないような設えとしましょう。
- “とおりや”のように、私有地にも川沿いへの接続路をわかりやすいサインと共に設けましょう。



石巻市中心市街地（行政・民間調整）

石巻かわまち交流拠点グランドデザイン

20160803 定例会議 4





第一カッター興業

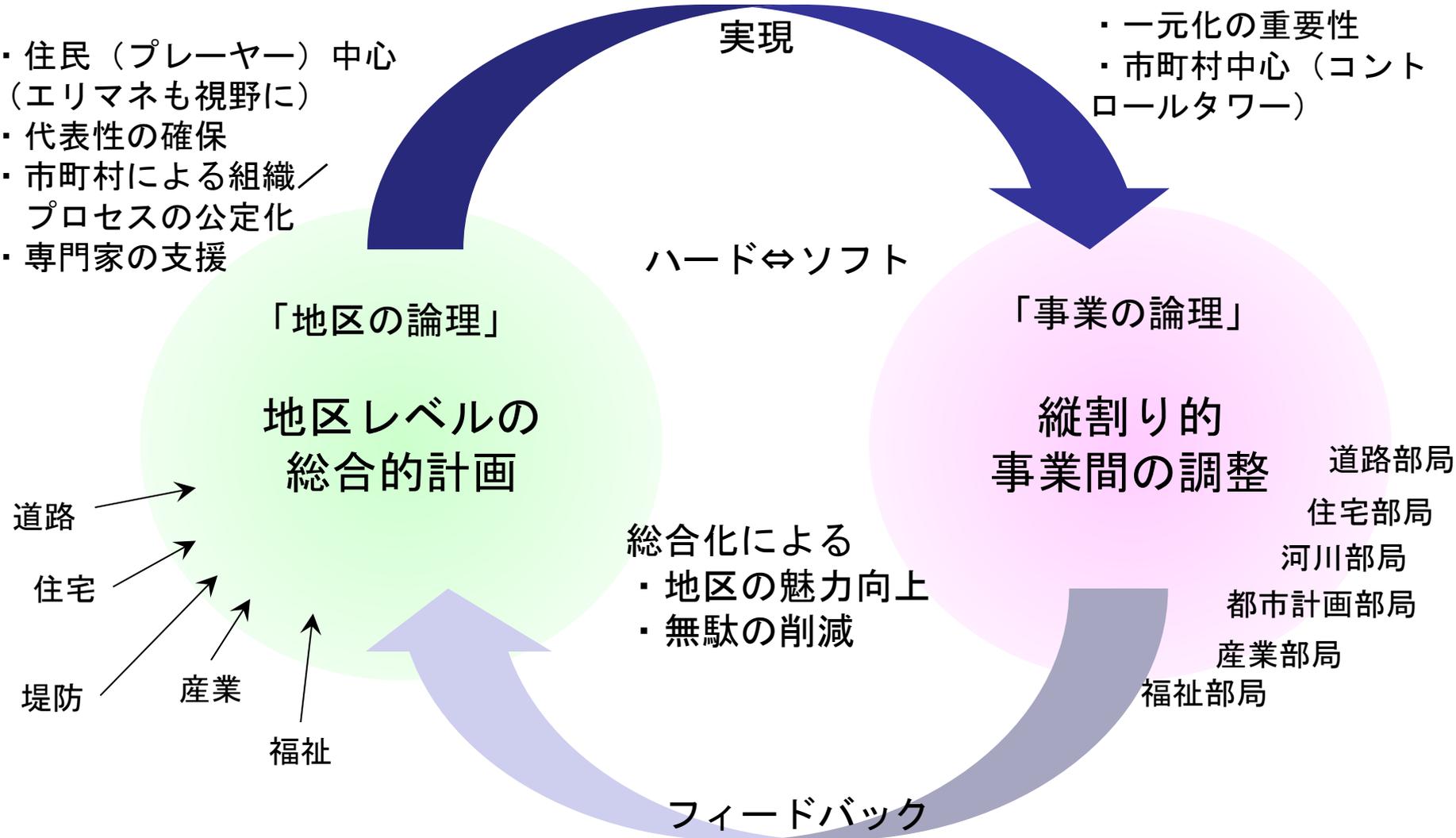




地区のビジョンと事業実現のための調整

- ・住民（プレイヤー）中心（エリマネも視野に）
- ・代表性の確保
- ・市町村による組織／プロセスの公定化
- ・専門家の支援

- ・一元化の重要性
- ・市町村中心（コントロールタワー）





本日の話

- はじめに
- 東日本大震災と復興空間計画の概略
- 防潮堤問題にみる総合的「地区の論理」と縦割りの「事業の論理」
- 地区レベルの計画策定プロセス
- まちづくり会社・エリアマネジメント
- まとめ



宮古市：「地区復興まちづくり検討会」

→ ○第1回 目的とスケジュールの説明、まちづくりの目標
⇒ 「戻る場所をつくる」

→ ○第2回 復興パターン、ゾーニング等 検討事項全体に関する議論
⇒ 「アイデアを出し切る、利点・問題点の検討（ゆるやかな絞り込み）」

→ ○第3回 市が作成した叩き台を元に、住民提言案（素案）の作成
⇒ 「実現性の検討（絞り込み）、素案の完成」

→ ○第4回 内覧会の結果を受けて、素案への加筆修正
⇒ 「住民提言案の最終確認」



地区復興まちづくり便りと意見記入用紙



内覧会の様子



市長への提言

(出典:中村・去石・前川他「宮古市の復興まちづくりと住民参画の取り組みについて」)

	10月	11月	12月	1月	2月
検討会	●第1回検討会	●第2回検討会	●第3回検討会	●第4回検討会	
検討の段階	意見出し		意見の集約		
補助的な事項			○技術・制度的検討 ○叩き台の作成	●内覧会	●第2回地区復興まちづくりの会
	○「まちづくり便り」の発行				

宮古市：「地区復興まちづくり検討会」

■第1回「戻る場所をつくる」

⇒最初はワークショップ形式に戸惑いもあり、よく分からないうちに決まった

■第2回「アイデアを出し切る、利点・問題点の検討（ゆるやかな絞り込み）」

→第3回以降、追加の移転候補地等の検討をした地区は無い

→第2回の時点で復興パターンを絞り込んだ地区もあった

⇒「造成にかかる時間」など助言を受け、メンバー間で絞り込み（ハード）

⇒「コミュニティの分散」に対する解決策を助言できない（ソフト）

■第3回「実現性の検討（絞り込み）、素案の完成」

→技術・制度的な実現性の検討を元に、住民提言案が概ね完成

⇒事業スケジュール等で第2回の議論内容を確認し、移転候補地の決定

⇒後追いの的に制度が決まり、「自動的に」復興パターンが絞り込まれることへの反発

■第4回「素案の最終確認」

→内覧会の意見を追記する形で修正

⇒避難路など、メンバーが見落としていた部分を加筆

⇒「自動的に」復興パターンが決まった地区では反発が続く



本日の話

- はじめに
- 東日本大震災と復興空間計画の概略
- 防潮堤問題にみる総合的「地区の論理」と縦割りの「事業の論理」
- 地区レベルの計画策定プロセス
- まちづくり会社・エリアマネジメント
- まとめ

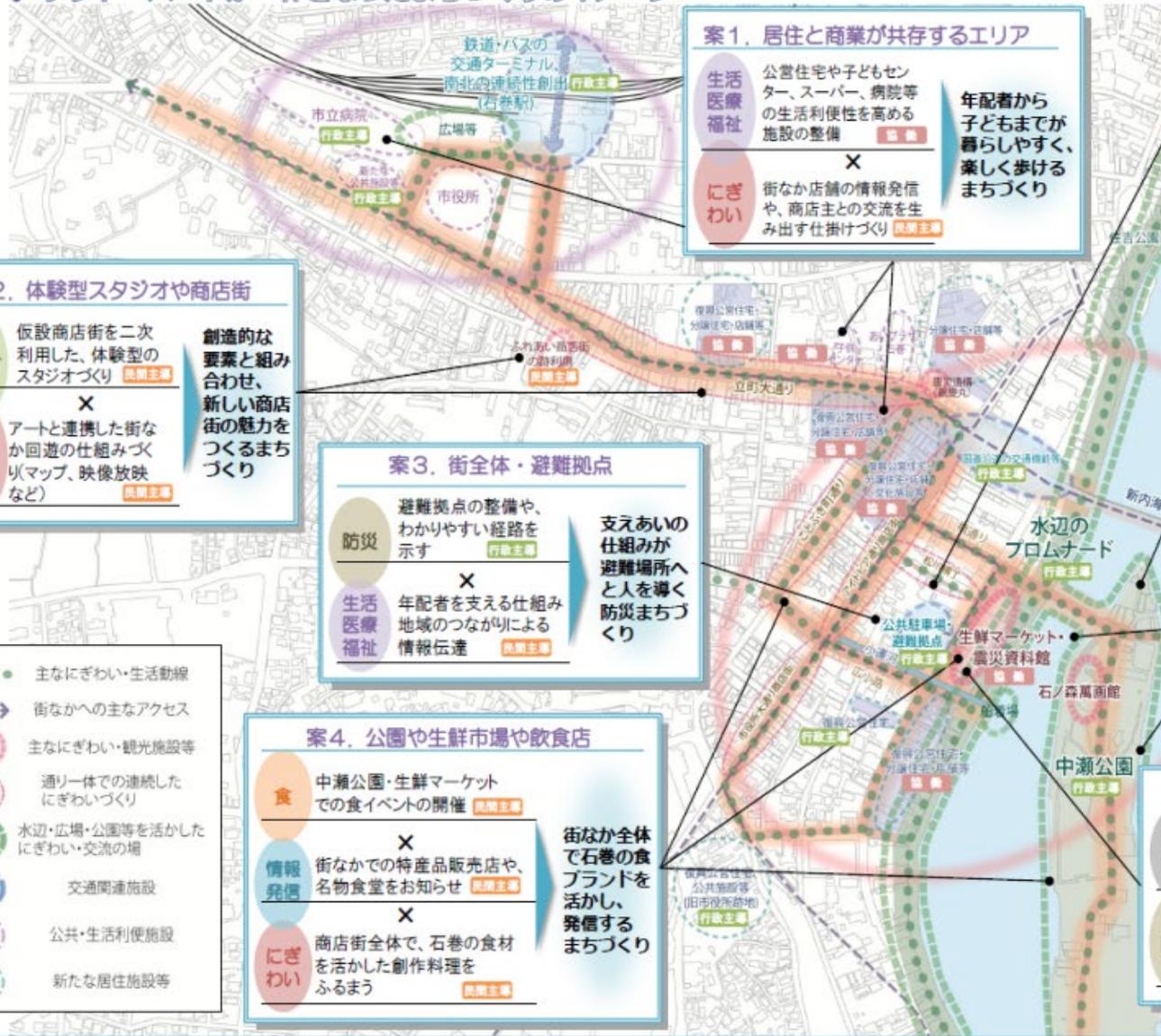
一プロジェクト同士のつながりをつくりながら、ソフトとハードが一体となったまちづくりを進めます

各プロジェクトは、それぞれを単独で進めるのではなく、プロジェクト同士の連携を図り、人のつながりを生みながら進めていきます。これにより、街なかの復興をスピード感を持って進めることができます。同時に、それぞれのプロジェクトの実現の舞台となる場所の整備も進めていくことで、“ソフトとハードが一体となったまちづくり”を進めます。

プロジェクトの
つながりをつくる

+ ハードで
展開する

✓ソフト・ハードが一体となったまちづくりのイメージ



案1. 居住と商業が共存するエリア

生活医療福祉 公営住宅や子どもセンター、スーパー、病院等の生活利便性を高める施設の整備 **医療**

にぎわい 街なか店舗の情報発信や、商店主との交流を生み出す仕掛けづくり **民間主導**

にぎわい 年配者から子どもまでが暮らしやすく、楽しく歩けるまちづくり

案5. 商店街と川沿いをつなぐエリア

アクセス 街なかアクセスの拠点として公共駐車場を整備 **行政主導**

情報発信 回遊のスタート地点として、街なか情報を発信 **民間主導**

にぎわい 手づくり市、屋台、仮設・本設店舗など路面での賑わいづくり **民間主導**

アクセス拠点から街なかの情報を発信し、個性あふれる商店街を回遊するまちづくり

案2. 体験型スタジオや商店街

アート 仮設商店街を二次利用した、体験型のスタジオづくり **民間主導**

にぎわい アートと連携した街なか回遊の仕組みづくり(マップ、映像放映など) **民間主導**

にぎわい 創造的な要素と組み合わせ、新しい商店街の魅力を つくるまちづくり

案3. 街全体・避難拠点

防災 避難拠点の整備や、わかりやすい経路を示す **行政主導**

生活医療福祉 年配者を支える仕組み地域のつながりによる情報伝達 **民間主導**

にぎわい 支えあいの仕組みが避難場所へと人を導く防災まちづくり

案6. 中瀬公園周辺のエリア

にぎわい 子供が楽しめる場・市民の憩いの場として中瀬公園を整備 **行政主導**

アート アート・マンガをテーマとしたイベント **民間主導**

にぎわい 大人から子どもまでが一緒に楽しめる公園づくり

案7. 川沿いエリア

食 生鮮市場など、石巻の新鮮な食材が手に入る・食べられる場の整備 **民間**

食 買った食材を、絶好のロケーションで美味しく食べられる仕掛けづくり **行政主導**

食 観光客から市民まで魅力を感じる、石巻の食と自然を体感できるまちづくり

案4. 公園や生鮮市場や飲食店

食 中瀬公園・生鮮マーケットでの食イベントの開催 **民間主導**

情報発信 街なかでの特産品販売店や、名物食堂をお知らせ **民間主導**

にぎわい 商店街全体で、石巻の食材を活かした創作料理をふるまう **民間主導**

にぎわい 街なか全体で石巻の食ブランドを活かし、発信するまちづくり

案8. 南浜公園から街なかへのルート

アクセス 南浜シンボル公園から街なかへのアクセスルートを確認 **行政主導**

防災 震災資料館の街なか整備・災害時の様子教訓・川津の歴史を学ぶ防災まち歩き **民間主導**

防災 震災の経験を活かしながら、川津としての歴史を受け継ぐまちづくり

- 主なにぎわい・生活動線
- ←→ 街なかへの主なアクセス
- 主なにぎわい・観光施設等
- 通り一体での連続したにぎわいづくり
- 水辺・広場・公園等を活かしたにぎわい・交流の場
- 交通関連施設
- 公共・生活利便施設
- 新たな居住施設等



株式会社 街づくりまんぼう

■ 概要

- 2001年設立、半官半民の第三セクター
- スタッフ:23名
- 萬画館運営事業、販促事業、まちづくり事業
 - マンガグッズによる販促事業の収益を、まちづくり事業へ投資
- 2020年5月に都市再生推進法人に指定
 - 公的な位置づけをもってまちづくりに取り組む



■ 街づくり事業

- 中心市街地の復興・活性化に向けたビジョンの作成
 - 商店街向け、行政向け、エリアごとなど複数の計画を作成
- 商店街への集客企画、復興事業で整備された堤防広場の活用
 - 夜店・売り出し、かわまちオープンパークでのイベント募集、運営
- 遊休不動産を活用したチャレンジショップやマンガ交流拠点の整備運営
 - 橋通りCOMMON(終了)、いしのまきMANGA .lab ヒトコマなど



- ①市が土地区画整理事業を導入して都市基盤を整備
- ②その上に市や民間事業者が施設を整備
 - ・中心市街地の賑わいの拠点 ・市観光の案内拠点 ・公共交通の結節点
 - ・堤防一体のまちづくりの拠点 ・歩行者が回遊するまちづくりを目指す



堤防及び堤防一体空間の整備

- ・国の河川堤防工事に併せ、背後の建物と水辺をつなぎ、川とまちを一体的に活用できる賑わいの空間を整備
- ・いしのまき元気いちば等の施設機能の拡大と、水辺や中瀬と連携し、相乗効果を図る
- ・令和元年8月供用開始
- ・令和4年3月末築堤工事了



(仮称) かわまち交流広場

- ・朝市、川開き等のイベントでの活用
- ・不整形な地形を活かしたづくり
- ・令和4年度完成予定

民間による開発事業

【市街地再開発事業】

- ・中央三丁目1番「石巻テラス」
- ・立町二丁目5番「ASATTE (アサッテ)」
- ・中央一丁目14・15番「リバーサイド元町」

【優良建築物等整備事業】

- ・松川横丁「COMICHI石巻」
 - ・中央二丁目4番南「石巻マークス」
- など、都市開発手法を活用した民間事業が展開されている

かわまち交流センター

- ・市民や観光客が集う憩いの場を提供
- ・観光の拠点施設として地域の周遊を促す総合的な観光案内を行う
- ・休憩スペースを設け、観光客に配慮
- ・誰でも入りやすい交流スペース
- ・平成30年9月オープン

いしのまき元気いちば

- ・地元産の新鮮な野菜・鮮魚等を手軽に購入できる店舗 (1階) とフードコートレストラン (2階)
- ・街なか住民と観光客双方のニーズに応える
- ・民間事業者 ((株)元気いしのまき) が整備・運営
- ・平成29年6月オープン

かわまち立体駐車場・バス駐車場

- ・3層4段 219台収容
- ・立体駐車場の前面に観光バス5台分のスペースを確保
- ・平成29年11月供用開始

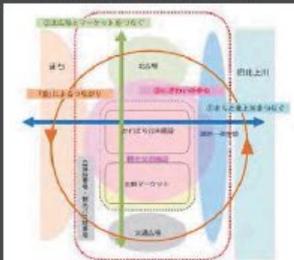
かわまち交通広場

- ・石巻駅前と並ぶ交通拠点として新たに位置付け
- ・平成30年6月完成
- ・平成30年10月路線バス乗入開始

まちなか交流拠点グランドデザイン

シノノビノライン 西平川町 等へ。

かわまち交流拠点の空間形成



かわまち交流拠点グランドデザインの基本方針（主要施策）

まちと北上川・北広場とマーケットをつなぎ、にぎわいの空間がより魅力的なものとなるように

県道を中心とする、歩行者の動線軸を強化する

県道を中心とする動線軸において要となる「オープンスペース」に着目して設えかたに配慮し
並行する動線軸「河川プロムナード」とも連動した、歩行空間を創出する。

●①広小路との接点に着目する

- ・自動車による来訪者（観光バス・自家用車）の起点。東側に隣接する路線バスの利用者もここが起点となる
- ・観光バス駐車場ではあるが、交流拠点における南側オープンスペースが確保される。
- ・アイトピア通り方面、生鮮マーケット・堤防・北広場・中瀬方面への誘導がポイントとなる。



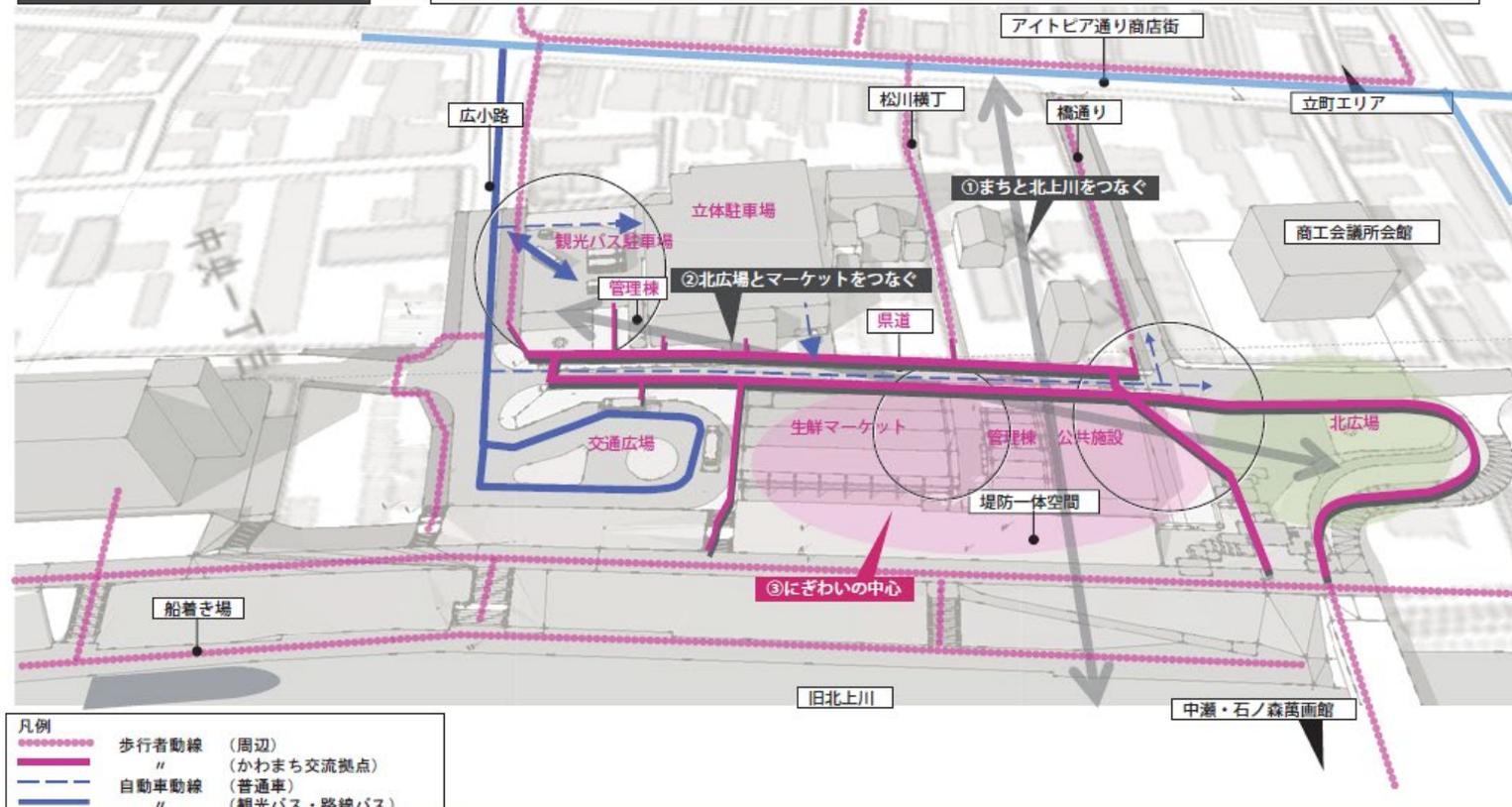
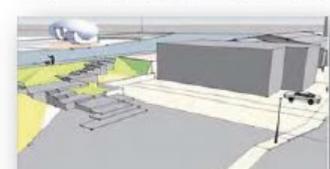
●②管理棟付近～堤防一体空間に着目する

- ・東西方向の歩行者動線（アイトピア～松川横丁）のアイストップ
- ・交流拠点における中央オープンスペース
- ・生鮮マーケットの作業ヤードと歩行者動線との区分がポイントとなる



●③橋通りとの接点に着目する

- ・東西方向（アイトピア～橋通り～西内海橋～中瀬）の歩行者動線と、南北方向（県道歩道）の歩行者動線が交差する焦点（ノード）
- ・交流拠点における北側オープンスペース







しんやん
グランドオープン

P ←

まちづくり計画の策定



市役所大通りまちづくり手帖

市役所大通りの目指すビジョン

お客さんとのつながりを大切に、新たな世代を受け入れる安全安心なまち

「やさしいまち」の実現

目標を実現するために記述する課題

1. 道の駅前環境
2. 道の平面環境
3. ストリートファッショナー

まちづくり手帖の使い方

1. 生活を支え、人とのつながりが生まれる「生活商店」の集まるまちをつくる。
2. お客さんとの距離が近い商店となるようにしつらえを工夫する。
3. まちのつながりや一体感を生み出すような道並み・景観をこころがける。
4. 地域全体が魅力的になるような色遣いを目指す。
5. 通りの一体感を演出しながら、便利で安全に歩きたいの気持ちでサインポストと緑陰スペースを設置をこころがける。
6. 地域の魅力を育むような空地の使い方を探る。
7. 通りの魅力を促すための植栽・仕組みをつくる。
8. 地域のつながりを活かし、わかりやすく、安全なまちの構成をつくる。
9. 目録、巻頭、巻末等の周辺環境とのつながりを作り出す。
10. 大きな建物は、まちに接する部分を解放して、街並みをつくる。

石巻かわまちエリア未来ビジョン

1 まちのチャレンジ応援プロジェクト

「イベントを企画してみたい」、「新たにお店を始めてみたい」、「自分の作った作品をいろんな人に見てもらいたい」など何かを始めたいという人たちが、適切にサポートを受けながら街なかでチャレンジできる環境をつくります。

チャレンジに向けたステップ

プロジェクトを通して、この壁を越えられるようにする！

プロジェクトの概要

- a) 遊休不動産を見える化し相談窓口をつくる！
 - ・ 出店可能な物件の情報を集め発信する。
 - ・ 各支援機関や地元事業者と連携を取り、出店希望者がスムーズかつ最大限の支援を受けられるようになる。
- b) 空き地・空き店舗を活用してチャレンジショップをつくる！
 - ・ 空き地にコンテナを設置したり、空き店舗をリノベーションして短期で借りられるお店を設ける。
 - ・ 整備にあたっては、チャレンジショップの持続性を確保できるよう、土地・建物所有者の協力を得て進める。

生み出したシーン

「何か新しいことを始めるなら街なか」が当たり前になる。
 ・ お店をやっている方が新しく作った商品をチャレンジショップで販売しお客さんの反応を見て開発を進めることができる。

街なかに出店したい！



空き地・空き家利活用プロジェクト



誰かの場所ではなく、
私たちがみんなの場所。
まちがそうであるように、
お店だってそうであらう。
誰かがつくるのではなく、
自分たちが、
お客さんと一緒につくる。
石巻のまちなかで、
人生をかけてチャレンジしたい。

日々刻々と変化する石巻の、
一風変わった屋台村。

橋通り COMMON

※営業時間（営業時間は店舗によって異なります）
〒986-0202 石巻市南二丁目 255-7
TEL: 0262-974-8266
E-Mail: hashibori.common@gmail.com
http://www.facebook.com/hashibori.common



新しい橋通りを、新しいまちなかを
新しいにぎわいを作ろう。みんなまで。



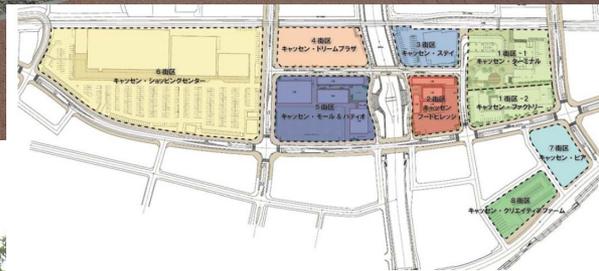
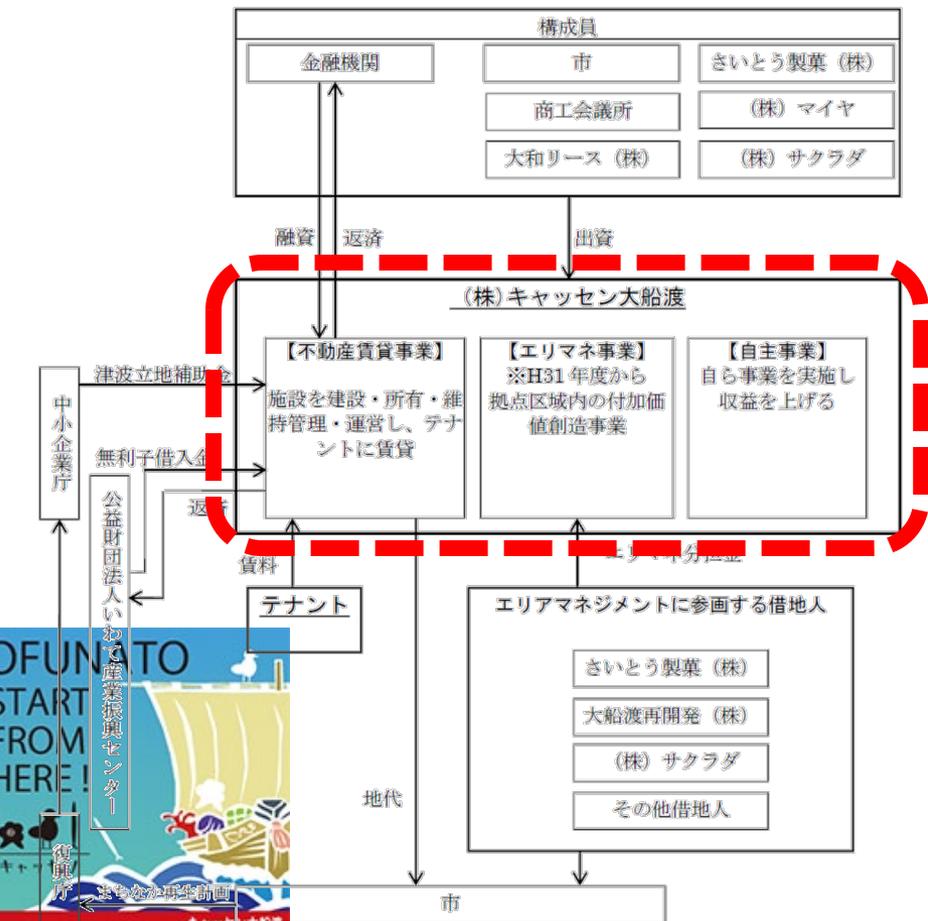
■ 空き地を活用して「橋通りCOMMON」
（震災後空き地となった敷地に車両型店舗を整備し、I・Uターン者による本設出店を促進）

■ 空き店舗を活用した「いしのまきMANGA lab. ヒトコマ」
（マンガ家などクリエイター育成支援拠点）
（出典：苅谷智大氏「都市計画」講義資料）



(株) キャッセン大船渡

- 事実上の公設民営によるテナントマネジメント
⇒ 所有者の事情によるシャッター化の防止（「所有」と「利用」の分離）
- 資金源の確保による多様なソフト事業の展開





(株)女川みらい創造

女川みらい創造



Onagawa Future Creation





本日の話のまとめ

- はじめに
 - さまざまな言い訳
- 東日本大震災と復興空間計画の概略
 - L1、L2／移転型・原位置かさ上げ再建型・・・
- 防潮堤問題にみる総合的「地区の論理」と縦割りの「事業の論理」
 - 総合的「地区の論理」に基づく縦割りの「事業の論理」の調整必要性
- 地区レベルの計画策定プロセス
 - 多様な計画プロセス：官製～民製～無
- まちづくり会社・エリアマネジメント
 - 復興まちづくりから平時のエリアマネジメントへ



ご清聴いただきありがとうございました

<(_ _)>